

就労支援フォーラムNIPPONフクオカ 分科会①

「重度障害」と働く ～現場の今とその意義を考える～

2020年11月18日（水）

場所：ホテルニューオータニ博多

九州社会就労センター協議会

会長 叶 義 文

1、はじめに

- ◆誰が「重度」で誰が「軽度」ということの定義のむずかしさ。
 - ・仕事の内容により変わる
 - ・合理的配慮があることで変わる

<重要なことは>

①適正な仕事を探すこと ②障害の特性の把握と合理的配慮

★とはいっても、必要な支援の度合いは違う

2、事例

【脳性麻痺の男性（46歳）】

- ・ GH 障害支援区分 6
- ・ 食事介助、トイレの介助、移動の介助・・・
- ・ 不随運動があり、パソコンをスピーディーには打てないが、エクセルでのプログラム作成、弁当やレストランのチラシ等を作成している
- ・ 工賃は、約 60,000 円
(時給 500 円 × 6H = 3,000 円/日)

氏名	Sさん	年齢	48歳	性別	男性
障害名	脳性小児麻痺	障害基礎年金	1級	障害支援区分	区分6
生活の場	グループホーム	年金	約81,000円/月	工賃	約60,000円/月
仕事以外の支援	①食事介助 ②トイレ介助 ③移動の支援 ④送迎（朝・夕） ⑤水分補給（飲み物 ストローでの水分補給） ⑥タバコ ⑦マスク、フェースシート ⑧消毒 等々				
仕事の内容	<p>たんぽぽ 就労継続支援事業A・B型</p> <p>⇒ 弁当（1日450個）・レストラン等、平均工賃 約40,000円</p> <p>◆就労継続支援B型に所属して就労関係の作業事務の仕事を担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弁当個数の打ち込み⇒1ヶ月の請求、1ヶ月の集計 ・ エクセルのプログラムの作成、1ヶ月の収支の打ち込み、チラシの作成 ・ 発注に向けたソフト（メニュー等）への打ち込み（カロリー計算） ・ 出勤簿の管理、出勤率の管理 ⇒ 工賃・賃金計算 等々 				
本人の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も働きたい。最後まで現役で仕事が出来ればと思う。 ・ 将来的には、A型に行きたいと思っている。 ・ 楽しくやりたい。黒字を出して皆で旅行に行きたい。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ もともとは入所施設。現在は、グループホームでの生活。 ・ 毎晩職員が泊まり込み、食事介助、トイレ介助、入浴介助等を行っている。 				



3、デーセントワークの考え方

1999年、ILO（国際労働機関）総会において提唱された言葉として「デーセントワーク」という言葉があります。

「デーセントワーク」とは、「働きがいのある人間らしい仕事」のことです。それは、生活の安定も含めて、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事です。ILOはすべての人に「デーセントワークの実現」を目指しています。2007年12月には国連の事務総長が、「デーセント・ワーク」を障害者の分野でもっと実践するようにとも提唱しています。障害のある人たちは、

様々な場で働いていますが、その様々な場での働きの中で、この尊厳のある労働・人間らしい労働・生活の安定も含めた「デーセントワークの推進」が求められているのです。

4、障害者権利条約（2006年12月国連総会で採択）の考え方

[第27条 労働及び雇用]

- 障害者の他の者と平等な労働についての権利
（障害者が自由に選択し承諾する労働によって生計を立てる機会を有する権利を含む）

【基本的な方向性】

- ・ あらゆる形態の雇用に係るすべての事項に関する障害を理由とする差別の禁止
- ・ 他の者と平等の公正かつ良好な労働条件
- ・ 安全かつ健康的な作業条件
- ・ 職場における合理的配慮の障害者への提供 など

[第28条 相当な生活水準及び社会的な保障]

- 障害者及びその家族の相当な生活水準を営む権利

5、今後に向けて

(1) 2本の柱

① 一般就労の推進

② 一般就労がむずかしい（希望しない）人たちがいきいきと働ける場 （福祉的就労）の充実も重要

(2) 障害が重くても、一般就労がむずかしくても、働くことを希望する人たちがいきいきと働く場があることが重要

⇒ 就労継続支援B型は生活介護と統合という意見がある中、重度の障がいがある人たちも含めて「働く場」としてB型は重要、
さらなる充実が必要

(3) Sさんの場合、工賃をもらい、年金と合わせてグループホームでの生活が可能に

⇒年金と合わせて地域で暮らしていける収入が必要

⇒収入があるから、好きなお酒を飲みながら生活ができる

⇒その人にとって高工賃につながる適正な仕事を見つけることはむずかしい。

(4) 一方、職場においてもトイレ介助、食事介助、移動介助、送迎等の支援は必要。職場において必要な支援を受けながら、働くことが出来ることが重要

⇒そういう必要な支援に対してきちんと人が配置できること

6、最後に

- (1) 働くことを希望する人が働き続けることができること
 - ・ B型の充実
- (2) 働くことをあきらめなくていい状況
 - ・ トイレ介助、移動介助、食事介助等々 ⇒ あきらめ
- (3) いきいきと働き、地域で暮らしていくことができること
 - ・ 地域であたり前に暮らしていけること